

令和5年度 園評価書

園番号 51 園名 静岡市立由比こども園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 評価	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
ここにこ笑顔で元気な子	「明日もやりたい」楽しい思いをつなげる	・「楽しい」「おもしろい」「もっとやりたい」という思いをもち、積極的にかかわり夢中になって遊んでいる	・運動会後から体を動かす遊びへの挑戦意欲が高まり繰り返す姿が増え、「やってみたらできた」が楽しい、おもしろいにつながったが、他の遊びでは遊びが途切れやすいこともあった	B	B	・良い表情で遊んでいる。家庭でも「明日は〇〇をやりたい」と話す姿が出てきた。 ・子どもは体を動かす遊びへの挑戦意欲が高まり繰り返す姿が増えているが、保育者側として支援のバランスが難しかったと思うならば、今後の課題として意識していけば良いと思う	・多様性に欠け、外からの刺激が少ない分、保育者自身が子どもの見本、手本となり遊びのきっかけを作り、遊びが持続、広がるようにしていく。又言葉をかけるタイミング、距離感など、子どものあそびを見取り職員間で話し合いながら共有する。 ・子どもの行動一つひとつを価値化しながら共感し自信をつけながら、伸び伸びと表現できるように関わっていく。
		・自分の思いや感じたことを言葉や行動で表現している	・自信がついたことで自分の思ったこと、やりたいことを言葉で表現することが増えてきた	A	A	・大きな声が出ているし、話していると思った ・子ども達に地域の事や自分の世界で知らないことを大人が知らせていくことが大事。次の機会で全員が覚えていなくても少しでも覚えてくれたらと考える。2人しかいなくても色々な体験ができるようにしてほしい ・大人になって自分から動き出すようになってほしい。今の大人の中には人任せで自分で考えて動かない人が多い。主体性がもてるように保育を進めていってほしい	
		・友達の良さを認めながら一緒に考えたり、試したりして遊びを楽しんでいる	・固定遊具や街作りの制作で互いにわからない所を聞いたり認めたりする姿が出てきた	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・学年目標を理解し、子どもが様々な人、物、事にかかわる保育をしている	・子どもの思いや頑張りを認めていく中で自信がつき、友達や保育者に「～したい」と言えるようになった ・デイサービス、漁港、農協等新しくつながった場所や人が多くあり、子ども達は様々な経験をしたり地域の状況を知ったりすることができた。保育の中でも表現することに自信がもてたり、いただいたものを栽培に利用したりと経験を生かす姿が出てきた	A	A	・小学校に向けて由比地区は様々な園から入学してくる子が多いので、どの園から来ては差はなく成長している。由比地区ならではの地域の経験をたくさんしてほしい	・今後も様々な物・事に関わり、子どものやったこと、考えた事、感じたことに対して価値づけをし、自信をつけていく。 ・全職員が共通して発達に合った支援・援助を行い子どもの成長を促していく。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・ひとり一人の生活リズムを大切にしながら安定した気持ちで過ごせるよう工夫している	・基本的生活習慣が身につけてきており落ち着いて生活できている	A	A	・家庭では今まで自分のことを周りの大人に頼んだりやってもらったりしていたが、最近では自分のことは自分でやると言い、取り組む姿が増えていて成長を感じた。「早寝、早起き、朝ごはん、朝ウンチ」の意識がついてきてリズムが整っている	・引き続き、子どもの状況に合った生活の保障を行い、自立に向けた支援を行う
	(3)環境を通して行う教育及び保育	・遊びの環境図を共有し、「楽しい」「おもしろい」「もっとやりたい」に繋がるような環境づくりをしている	・運動会の競技での巧技台の挑戦、固定遊具、ロープ遊びなど今まで経験したことがない遊びができて、魅力的な環境になってきた。しかし他の遊びでは子どもの興味と保育者の思いにずれが生じて「もっとやりたい」に繋がりがなかった	B	B	・「楽しい」と思う環境として地域をもっと活用してほしい。「楽しい」ことをたくさん経験させてほしい ・集団が大きいと遊びがヒットする事が多くある。でもヒットすることがたくさんで目移りして深く遊びこめない。2人だとヒットするかしんないかははっきり出るが、ヒットしたものは深く遊びこむことができる。そこは2人での良さだと思う。ヒットする環境をいかに増やすかだと思う ・不審者の定義が難しい。小学校の不審者訓練で知らない人に声をかけられたら逃げると指導していたが、町づくり側としては挨拶することや人との繋がりが大切と思っている。何処で判断するか一園内に入って保育者が対応した時におかしいと思った時点で判断が多い	・今後も人的環境として、保育者の応答的な働きかけ、言葉かけなどを意識して遊びが深まっていくようにする。 ・色々なことを見たり聞いたり、経験、体験する機会を多くもち実際に感じることを重視していく。 ・子どもが何を面白がっているのかを汲み取りながら夢中になってとことん遊べる援助を行う。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・様々な想定訓練を行う中で、自分で自分の身を守る行動を身につけている	・火災、地震、不審者の基本的な対応は身につけてきた	A	A		・今後も継続して行くと共に避難場所へ逃げるまでの時間短縮を図っていきたい
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・感染症予防の習慣(手洗い、うがいの習慣)を身につけている	・養護教諭に保健指導をしてもらったり、入室時給食前の手洗いうがいの見届けを行ったりしたことで習慣づいてきた	A	A	・家庭でも手洗いうがいの意識がついて習慣化してきた	・今後は、基本的習慣だけでなく食事のマナー、規律(きまり)などについても伝えていく。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・ケース会議など職員間で子どもの姿を共有し、その児の得意なことを活かして教育・保育を行っている	・ケース会議や打ち合わせにおいて子どもの姿は共有できてきた。しかし個々の得意なことを活かすまでには至っていない	B	A	・特別支援対応児はいないが個別の支援計画のように個々に作成して丁寧に取り組んでいると思う	・情報の共有を図りながら子どもが居心地良く生活できるための支援・援助を行い、個々が輝いているものを皆に知らせていく。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	・職員がお互いに情報を共有し合い、連携をとりながら教育・保育を進めている	・周知方法を変更したことで会議や職員室で子どもの様子を全員で共有することができた	A	A	・保育者が会議する中で良さだけでなく課題もはっきり出し合う職員間で共通理解を深めていることを公開保育に参加をして感じた	・職員数が少ない事で情報共有がきちんとされているのでより連携よく保育ができるように継続していく
6 研修	(1)研修体制の充実	・研修テーマである「楽しい」「おもしろい」「もっとやりたい」をもとに子どもがわくわくする実践を行っている	・どんなことに楽しさやつまづきを感じているかを研修で確認し、遊びのアイデアや改善策を話し合うことができた。今後は子どもの遊びを見取りながら刺激になる環境を増やしたい	B	B	・保育者も仲間として遊ぶ事は基本ではあるが、どこでどう関わるべきか、保育者が遊びに入る場面、遊びから引いて見守る場面が出てくると思う。職員で共有して今後も研修を進めていってほしい	・今後も一層、公開保育や日々の助言が保育に活かされているか会議で振り返ったり、職員一人ひとりが向上の為の意識をもって保育する。
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	・子どもの興味関心を探り、遊びこめる環境(時間、空間、教材)を作っている	・拾ってきた自然物を活かして街や家を作ったり、固定遊具間のロープ遊びができたりしたことで遊び込む姿が出てきたが、他の遊びでは遊びが広がらず終わってしまうことがあった	B	B	・興味をもったことをもっと活かした環境が作れるようにしていきたいと先生方が考えているならば来年度意識して取り組んでいただければいいと思う	・保育者自身が子どもの興味を探れる目を磨き、職員間が子どもについて語り合う時間を設け共有する。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・クラスだより、ボードなどを利用し、子どもの育ちを共有している	・ボードの活用により送迎時の保護者との会話ができていた	A	A	・毎日ドキュメンテーションがあることですぐ見て分かり、理解しやすかった	・今後も継続的に園での様子をダイレクトに伝えていくと共に子育ての楽しさ、子どもの成長を保護者と共有していきたい
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	・園から小学校へ、円滑な接続を見通した活動や研修を行う ・計画的に近隣こども園との交流を図る	・3園交流以外の交流が多くあり集団経験や一緒に楽しく遊ぶことができた ・由比中央との交流をメインとし、2人では経験できないことを多く体験することができた	A	A	・交流があることで子どもたちも色々な友達とのかかわりが増え楽しくなったようだ	・積極的に近隣園との交流を図ると共にコミュニティスクール試行を含め、小中との職員間、児童とのつながりを作っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・ESDの理念を職員で共通理解し、持続的に地域の人材や文化を遊びや生活に取り込んでいる	・昨年度よりもデイサービスや漁港、農協への買い物など地域での経験をたくさん行った	A	A	・地域に出かけることで色々な経験をして欲しい。地域の高齢者は子どもとかかわるだけで元気をもらっている。たくさん触れ合う機会を作してほしい	・地域の資源(人・もの)を十分に活用し、由比の町への関心を高めていきたい